

Interview Transcript: 2017 Yamauchi [6:20]

私避難した時に、あの、youtubeで動画配信されてますよね。その光景を、まさにその場所からあの光景で見てたんですね。ちょうどあの場所に避難して、あれをそのまんま見てた状況ですね。その、震災あって、働いていた場所から、自宅っていうか、あの、アパートだったんですけども、そこに戻って、三階建てだったんですよ。線路もありまして。そこ、まさか、その、津波が超えてくるっていうのは夢にも思わなくて、そこ超えてきたら志津川の町全体、志津川町がみんな全滅するっていう思いで、そこを超えるなんて夢にも思わなくて、三階建てだったんです。その三階に、仮に来たら上がればいいって思ってて、避難しなかったんです。最初。それが、あの、ちょっと遠くを見た時に、火事かなって、茶色い煙、上がってて、火事かなと思ったら、それが津波での砂煙り、土煙っていうの、だったんですね。それでとっさに高台のほうから逃げろっていう声が聞こえて、みんなで、あのう、そのアパートにいた人たちで、五、六台かな車、で、連ねてやっと、上がって見た瞬間に、もう、あの、町が流される、ちょうどあの動画で流されてる場面だったんです。

高台から、その、逃げろっていう言葉がなかったら、みんなでその場にいましたね。で、その言葉にみんな助けられたっていう感じですね。何なくても、みんなの協力があればできる。電気もない、水もない中で、みんなで、あの、火をおこし、ご飯を炊いたり、水もなくとも、なんとか工夫してお皿作ったり、電気もない、まあ、電気の無い恐怖っていうのは一番でしたね。あの、夜は揺れの中、真っ暗な時にあの揺れの恐怖っていうのが一番、電気の無いのは一番やっぱ怖いって感じましたね。それから徐々に徐々に電気もつき水も出て、そして食べるものも皆さんからの支援でね、だんだん増えてきましたしね、とにかくそういう状況の中からですの、経験の、生まれて経験のしたことのない経験だったんで、徐々に徐々にやっぱ心は強く、うーん、なりましたね。

そうですね、食にも恵まれてますし、環境にも恵まれて、住みやすい町だと思いますね。人もやっぱり、あの地域によって若干、海の方、山の方の人っていうのもちょっと若干性格も違うんですけども、それなりに皆さんいいところ、うーん、粗い性格の人でも気持ちがいいとか、うん、とにかく人にも恵まれて、いい人たちも結構多い町ですし、うーん、食に関しててもすごい素晴らしい海のもの山のもので恵まれてますし、ただね、もう少し若い人たちが働く場所があれば、もう少し、もっともっと変わっていく町だと思いますね。若い人たちの仕事っていうのは、あんま

りないのかなって思えますね。みんな町外とか、ほとんど若い人たちは、あと自営業、漁業とか、会社関係もあんまりないですし、町外で働く人たちは多いと思いますね。でも今は、あの、これからいろんなお店が、どんどん、まあ、できて来ますので、だんだん若い人たちに働く場もできてきてると思いますし、我々年代の人達にも、あの職場っていうのが、どんどん今提供されて、できてきてるんで、働く場はたくさんできてると思いますね。この町は住むには素晴らしい町だと思いますね。食に関しても環境に関しても、人々の繋がりに関しても、やっぱ、住んでみれば分かると思います